

# 夢・努力・感動 ～生徒とともに～

平成30年12月19日(水)

人権・同和教育部だより  
3年生徒・保護者版

みなさん、こんにちは。人権・同和教育部です。今年も残すところあとわずかとなりました。3年生の大多数の人が、来年1月の大学入試センター試験に向けての勉強に余念がないことでしょう。だいぶ寒さが厳しくなってきましたので、風邪予防など体調管理にも気をつけて頑張ってください。

さて、今回の人権・同和教育部だよりは2学期に行われた人権・同和教育HR活動と3年生対象の講演会について振り返ってみたいと思います。

## 人権・同和教育HR活動

10月24日(水)「お互いに気持ちのよい学校生活を送るために」

○HR活動の内容(グループワークあり)

- ・自分の進路先の志望理由を考える際や面接練習をする際にうまくいかないことは何か、うまくいかない理由は何かを考える。また、自分の進路が決定した後に、他者の気持ちを考えてどのような行動をとるべきかを考える。
- ・「学校生活に関するアンケート」集計結果に出てきた、「人を傷つけるような言動」をしてしまう原因を考える。また、そのような言動をしないためにはどうすればいいのかを考える。

○生徒の皆さんの感想文より

- ・受験で心が不安定になったり、余裕がなくなったりするのはみんな一緒だと思いました。進路が決定した人にはクラスの「空気をこわさない」ように本当に気をつけて欲しいと思うし、私は進路が決定しても気を抜きません。みんなと意見交換ができてよかったです。
- ・私自身、思ったことをすぐに口に出してしまう癖があるので、今回の授業を通して改めて気をつけようと思いました。何か言葉を口にするときは一度立ち止まり、「この言葉を言ったら相手はどう思うか」ということを考えてから口に出すように心がけたいです。

11月22日(水)「結婚差別について」

○HR活動の内容(グループワークあり)

- ・「平成28年度島根県人権問題県民意識調査報告書」等の資料から、現在でも同和問題に関する差別意識が残存していることを知る。
- ・結婚差別の事例を通して、両親が結婚に反対した理由や背景について考える。また、今後このような結婚差別事象をなくすために誰が、どんな立場で、具体的にどのようなことをすればよいかを考える。

○生徒の皆さんの感想文より

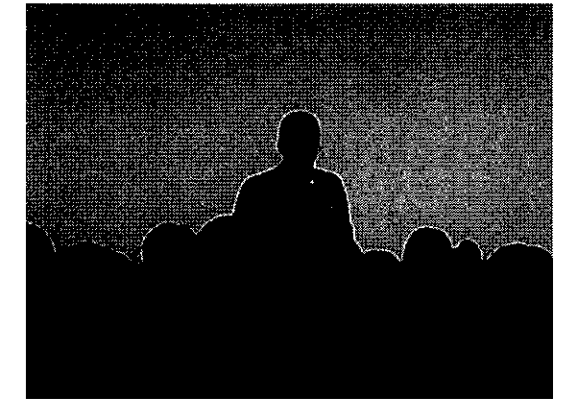
- ・「若い世代に差別意識をもつ人が少なくなってきたとしても、上の世代には今なお差別意識を持ち続けている人がいるということを知り、学生が学校で部落差別について学ぶように、親以上の世代の人も部落差別について学ぶ機会があればいいと思いました。
- ・両親がいろいろな理由で反対していますが、本当のところは自分たちが差別されることを恐れているのではないかと感じました。差別されるかもしれないと思うと社会がいまだにあるからだだと思います。
- ・浪子さんと同じ立場で、両親から「自分の幸せが、いとこの不幸になる」と言われたらどうするのか考えさせられました。これからの人生でこのような差別に出会うかもしれないので、そのとき自分はどのような行動をするべきなのか、日頃から考えておこうと思いました。

## 人権・同和教育講演会

12月10日(月)「生きるということ」 講師 三浦成人さん

○講演会について

本校では例年、これまでの人権・同和教育のまとめとして、「源氏螢の会」代表の三浦成人さんに3年生対象の講演会をお願いしています。三浦さんは県内外の中学校・高校で毎年多くの講演会をされています。三浦さんご両親のエピソード、三浦さんご自身の壮絶な差別体験、三浦さんと深いつながりのある人達の暖かい生き様など、涙を流して聞き入っている人もいました。三浦さんが最後に退場される時、拍手で見送る3年生の皆さんの背筋がピンと伸びていたのが印象的でした。



「今まで身の周りで差別を感じたことがないので、人権HR活動で学習する内容に実感がなかった」という人も、「小中高を通して様々な人権問題について習ってきたおかげで、今日の講演会の内容が理解できた」ようで、「差別は現実に残っているのだから、差別のことを知らなければ自然になくなるような生やさしいものではない」とも分かったと思います。

○生徒の皆さんの感想文より

- ・今までの人権・同和問題の学習で知り、理解していたのはつもりの状態でした。実際に差別というものを経験された方のお話を聞いたのは今日が初めてで、今までと全然違う言葉の重みが心の中に落ちてきました。中学・高校の時の体験も細かく話して下さいました。想像をはるかに超えていて、考えるだけでつらかったです。それなのに話して下さい、本当に意思が強く、自分を持ってもらえる方だと思いました。
- ・今の世の中では、おかしい意見(差別であったり、いじめであったり)が多数派になると、それが絶対におかしいと分かっているのに、それは間違っていると言えない空気があるのが問題だと思います。今日最後に学んだ「自分らしさ」を忘れないように生きていきたいと思いました。また何かをしてあげられないときでも思っている気持ちを伝えられるように行動していきたいです。
- ・三浦さんは周りの人達の支えがあって差別を乗り越えてきておられ、やはり周りの人の支えやつながりというものが一番大切だと思いました。そのためには少しでも多くの方が差別についての知識や理解をもち、困っている人を助けていかなければいけないと思いました。自分がこれから先社会に出て行く中で、差別に立ち向かう強い心を持ち、自分らしく生きていこうと思いました。

## 最後に

ちなみに、島根県で現在のように学校教育の場で同和教育に力を入れるようになったのは、1980年代半ば、島根県出身のA君が大阪府において結婚差別事件を起こしたことがきっかけでした。A君は大阪で知り合った部落出身のBさんと交際し、結婚を約束しながら、家族に部落への偏見を持った差別意識を吹き込まれてから結婚を白紙に戻したあげく、最後は「今の世の中では、部落差別はしかたない」などの差別的な言動をするに至りました。A君は中学・高校時代を通じて「同和教育を学んだ記憶がない」と答えたそうです。加害者A君とその家族は初めから部落に対する偏見をもっていただけではなく、いつしか間違った情報や偏見を持つようになり、差別をする側になってしまったのです。

みなさんのHR活動や講演会の感想文では、このような差別を「将来自分が関わる問題」として差別の「不合理さ」を認識し、「差別解消」のために「行動したい」という声が多かったです。大社高校では高校卒業後に、他県に進学・就職する人の割合が例年圧倒的に多くなっています。卒業後は全国どこに行こうとも、問題ありと思われる場面に遭遇したときは、差別解消のための適切な行動をとって欲しいと思います。